

審査経過及び講評

1 委員構成

桑名市総合医療センター新病院基本設計プロポーザル審査委員会

- 委員長 今井 正次 (三重大学名誉教授)
- 副委員長 横山 賢 (三重県県土整備部次長)
- 委員 末永 裕之 (日本病院会副会長 小牧市民病院院長)
- 委員 竹田 寛 (三重大学医学部附属病院 院長)
- 委員 榊 英俊 (桑名市都市整備部理事)
- 委員 足立 幸彦 (桑名市総合医療センター理事長)
- 委員 栗田 秋生 (桑名市総合医療センター副理事長)

2 最優秀提案者選定までの経緯

- 平成24年 8月 9日 第1回 桑名市総合医療センター新病院基本設計プロポーザル審査委員会開催
- 平成24年 8月10日 公募型プロポーザルに係る手続き開始の公告
第1回質問書受付開始
- 平成24年 8月27日 参加表明書等提出期限、第1回質問書提出期限
- 平成24年 9月 3日 第1回質問書に対する回答
- 平成24年 9月 5日 参加資格届出書提出期限
- 平成24年 9月10日 第2回桑名市総合医療センター新病院基本設計プロポーザル審査委員会開催 (一次審査：書類審査)
- 平成24年 9月11日 一次審査結果通知書送付
- 平成24年 9月12日 現地見学会
- 平成24年 9月18日 第2回質問書受付開始
- 平成24年 9月24日 第2回質問書に対する回答
- 平成24年10月 9日 技術提案書提出期限
- 平成24年10月12日 第3回桑名市総合医療センター新病院基本設計プロポーザル審査委員会開催 (二次審査：ヒアリング審査)
- 平成24年10月15日 二次審査結果通知書送付
- 平成24年10月26日 審査経過及び講評の公開

3 審査経過

今回の基本設計業者の選定にあたっては、厳正かつ公平に行うため桑名市総合医療センター新病院基

本設計プロポーザル審査委員会要綱に基づき桑名市総合医療センター新病院基本設計プロポーザル審査委員会（以下、「審査委員会」という。）を設置し、公募型プロポーザル方式によって最優秀提案者を選定した。

【公募型プロポーザルに係る手続き開始の公告】

公募型プロポーザルに係る手続きには、第1回審査委員会（平成24年8月9日開催）において、委員7名全員の出席のもとに審議・承認し、平成24年8月10日付で公告した。

【一次審査】

一次審査は、第2回審査委員会（平成24年9月10日開催）において、委員7名全員の出席のもとに次の手順で行った。

（1）参加表明書等の提出は7者であったが、1者辞退されたため参加資格届出書等の提出は6者であった。提出された参加資格届出書等について、事務局にて応募者の実績及び配置予定技術者の実績等を評価した。

（様式6）事務所の主要業務実績詳細No.1、No.2について（6者を提出順にNo.1～No.6と表記）は、桑名市総合医療センター新病院基本設計に参考となる事例を求めたことに対し、採用構造、既存施設の建替え事例、免震工法や制震工法の事例など参考になる事例が多数提出された。

（様式6）については、各委員の評価が必要となることから事務局において概要の説明を行い、その後、各委員間で意見交換を行たうえで評価した。

（2）一次審査の参加者の実績及び配置予定技術者の実績評価と（様式6）の各委員の参考事例評価により審査を行い、募集要項に定められたとおり6者の中から5者を選定し、二次審査（ヒアリング）対象者とすることを決定した。

（3）その後、第二次審査の場所及びヒアリングの進め方について協議を行い、第一次審査を終了した。

（4）第一次審査を通過した二次審査（ヒアリング）対象5者に対し審査結果通知書を平成24年9月11日付けで送付した。また、同日付けで非選定1者にも結果を通知した。

【二次審査】

（1）二次審査は、第3回審査委員会（平成24年10月12日開催）において、委員7名全員の出席のもとに下記の手順で行った。

（2）二次審査ヒアリング開始前に二次審査の進め方の確認を行った。

（3）一次審査を通過した5者に、順次技術提案書について各者30分のプレゼンテーションを求め、委員との間で各者30分の質疑応答を交わし、コミュニケーション能力や表現力を含めた提案者の総合

的な技術力を審査した。

(4) 5者すべてのプレゼンテーション及びヒアリングが終了後、委員間で意見交換を行い、各技術提案につき十分に理解を深めたうえで、各委員が採点を行った。

(5) 事務局において、一次審査結果と二次審査結果を集計したところ、下記に示すとおり最優秀提案者を特定した。

最優秀提案者：株式会社 日本設計

参加者：(五十音順)

株式会社 梓設計

株式会社 共同建築設計事務所

株式会社 内藤建築事務所

株式会社 横河建築設計事務所

4 講評

【審査経過と講評】

工期・工事費・敷地形状・立地・既存施設の活用・診療を継続しながらの改修・改築等で大変厳しい条件であったが、各者が真摯に検討していただき、それぞれ内容のある提案をいただいた。

5者の30分のヒアリング・30分の質疑応答の後、理解を深めるために審査委員それぞれそれぞれの立場から各提案の特質について意見交換をした。

審査委員会では、工期・コスト等の厳しい条件を考慮したうえで、既存棟を含め、新病院全体としての機能性がいかに確保されているか、工事期間中の病院機能の維持のためにローリング計画が明確に提案されているかが主な注目点として議論された。具体的には、急性期病院としての主要部門間の動線計画、既存棟の活用方法、開院予定時にどの程度の完成度が想定できるか、また、構造等の関係手続き期間の考え方、設備面での災害対応などについての質疑・意見が多かった。

その後、各委員が採点を行い、集計結果の確認を行った。そのうえで、85%以上の得点を得た株式会社日本設計を最優秀提案者として特定した。

最優秀提案者：株式会社日本設計

新棟を、道路を挟んで2棟に分けることで工期の短縮を図るとともに、それぞれの下部2層を駐車場にしている。

津波等の災害に対応した計画であり、また、分散した敷地の一体利用を目指した計画となっており、独創性とともにそれを実現させるためのきめ細かい提案が盛り込まれている。

海岸地域の病院、複雑な土地利用の市街地の病院計画の1つのモデルとして高く評価され、最優秀提案者として特定された。

主となる入口と受付が3階となるため、アクセスの更なる工夫と既存棟の機能における詳細検討の必要性について指摘された。

A者

非常にきめ細かい設計プロセス、計画の機能性、病棟の療養環境や医療環境の変化への配慮など高く評価されたが、既存施設の活用について十分な検討・提案がされていないと判断され、特定されるに至らなかった。

B者

既存棟を主に外来診療部門として活用し、新棟にそれ以外の機能をほぼ収容したうえで、そのジョイントとしてエントランスホールを増設する提案であり、大変分かりやすく、工期・コストともおおむね条件を満たしていると判断され評価は高かったが、提案の独創性が及ばず特定されるに至らなかった。

C者

既存棟に3つ病棟を配置し、新棟の規模縮小を意図した提案であった。既存棟に配置した病棟の療養環境の担保が困難であること、開院予定時に主となるアプローチが明確になっていないこと、工期の想定が不明確であることなどが指摘され、特定されるに至らなかった。

D者

既存棟に外来診療部門を配置し、放射線治療部門を別棟で配置するなど、棟毎に機能を分担させることで使いやすさを求めた提案であった。工期・コストともに条件を満たしていないこと、開院予定時に主となるアプローチが明確になっていないことなどが指摘され、特定されるに至らなかった。